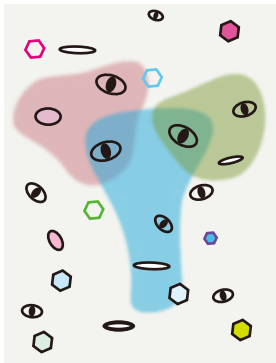


1

境界が曖昧なロボット —動的な関係性の中に出現するロボット—

7.5 (日)

日程決まりました。



古代の人が夜空に散らばる星々から星座を見出したように、星のように空間に散らばる複数の目や手や口、その他の身体的デバイスを任意に組み合わせ、星座を作るように特定の境界（輪郭）を見出し、身体的な存在感を認識することにより生成するロボットの在り方を探る。これは昨年度の何もない空間に存在感を与えるスキマロボットの延長にあり、ロボットという手法を通して人間の認知のエッジを刺激する試みである。そして空間に浸透する方位や場の情報などさまざまなコンテキストを顕在化する方法へとつなげたい。

ゲスト講師 大澤 博隆 (工学博士・慶應義塾大学理工学部研究員)

1982年横浜生まれ、千葉育ち。慶應義塾大学理工学研究科修士課程および同研究科後期博士課程修了。2009年3月博士号取得。情報工学科の安西・今井研究室に所属し、デバイス開発や対人実験を通じて、『擬人化現象』を利用した情報提示手法の可能性を探っている。2006年度上期末踏ユース所属。共著書に『人とロボットの<間>をデザインする』東京電機大学出版局。http://www.ayu.ics.keio.ac.jp/~osawa/

2

書体ともの —古書体漢字のセンス—

8.9 (日)

日程決まりました。



ヒエログリフなど古代文字の多くが滅んだが、漢字は今だに使われ続けている。漢字は古代のコンテキストの上であって、太古のセンスを今に伝えている。文字は単なる記号ではなく、心とものを連結する造形であり、「耳なし芳一」のように呪術的な機能性をもっている。そして書体はその時代の息吹を伝える。今回は、篆書（てんしよ）体を中心に、実際に毛筆で文字を書きながら古代のセンスを体感し、新しい文字や書体を作ってみたい。

ゲスト講師 仲 崇霖 (書家・アートスクール銀座書画研究院書画講師)

1967年中国江蘇省連雲港市生まれ。南京師範大学大学院美術学・書道専攻修士課程卒業。立正大学大学院文学研究科仏教学専攻博士課程修了。2003年立正大学大学院修士論文仏教学術賞。1993年江蘇美術館書道作品入選。1994年中国書道協会。第一回対聯書道大展入選。1996年南京師範大学美術学院書道新人賞。1998年广州仏教書画芸術国際精英賞。他受賞多数。

3

言霊ともの —モノ・コトの名前に潜む感覚価値—

12.13 (日)

日程を変更しました。



「チ」「ワ」「ア」「マ」「ハ」「ミ」など、日本語には一字言葉が多い。ある種の初源的な言葉はたった一言で意味を持つと同時に、呪文のように現実界に影響を及ぼす力を持つ。しかし、なぜ「ア」という発音は天や遠くを意味し、「ミ」という発音は「身」を意味するのだろうか。また端、橋、箸、嘴、梯は全て「ハン」と発音する。同音異義語、言霊、掛け言葉、詩はては駄洒落まで。音を通して無関係に見えた言葉に共通点が見出される。言霊という切り口でモノやコトの名称を見ていくことで、深いところでモノやコトの意味をつなぐ共通性をあぶりだし、潜在的なレベルでのモノやコトの類縁性を見直したい。

ゲスト講師 鎌田 東二 (京都大学こころの未来研究センター教授)

1951年生まれ。國學院大學大学院文学研究科博士課程神道学専攻修了。著書に「翁童論」(I~IV)「記号と言霊」「宗教と霊性」「謎の猿田彦」「神と仏の精神史」「呪殺魔境論」「霊の人間」「平田篤胤の神界フィールドワーク」他。

4

数ともの —2の形・3の形の象徴とカー—

'10.2.21 (日)



箸と三脚。いろいろなものをデザインしていると、対になった2本の箸や4本脚の椅子など割り切れる形に落ち着く。一方で、三脚など3点で支える脚は、どんなでこぼこの平面でも安定する。一般に2は心と体や、自分と他人、男女などの二元論を象徴し対立構造を持っている。一方3は、真行草、じゃんけん、三権分立など中和構造をもつ。2や3が古代から解釈されてきた歴史を参照し、それらがどのような現代的意味をもつかを考え、象徴的かつ機能的な働きとして数をとらえ直し、日常の物に還元したい。

講師 上林 壮一郎 (デザイナー、京都造形芸術大学准教授)

1967年東京生まれ。千葉大学大学院工学研究科修了。京セラ株式会社勤務後、ミラノのドムス・アカデミー、スタジオ アンドレア・ブランジを経て1999年スタジオ アルキメデス設立。第10回コイズミ国際学生照明デザインコンペで銀賞受賞。「PRESENCE展」「MONEY DESIGN展」「HIDDEN FURNITURE展」「暗いあかり展」「POLY-SITE」の一連の展覧会など展覧会出席多数。